

いつもおいしくそして安全であること 作り手の笑顔は確かな安全の証。

えびの市の基幹産業である農業は、市を貫流する川内川流域を中心に知られており、その粗生産額は210億2千万円となっています。川内川周辺の標高200～250メートル帯は、質・量ともに県内の最高峰を誇るえびの米の一大産地。ほ場整備を積極的に推進した結果、一区画が20アール以上のほ場整備率は60%を超え、後継者不足による高齢化対策として、認定農業者や集落営農への農地の流動化に努め、ブランドの確立を目指しています。また、水田裏作として、醸造メーカーとの契約栽培による大麦栽培等にも取り組んでいます。標高250～350メートルは畑作地帯となっており、施設園芸や露地野菜等の契約栽培が行われています。施

設園芸は、イチゴを中心にエコピーマンなど当市の立地条件を生かした農作物の栽培を推進。露地野菜は、ほうれん草や小松菜など、市内の加工野菜メーカーとの契約栽培が行われています。さらに標高500メートル以上の高台にはキャベツや花の苗物等の栽培地のほか畜産団地も整備。畜産農家の優良なたい肥は米や野菜の栽培に、一方、稲ワラは家畜の飼料として利活用するなど、耕畜連携による安心・安全な資源循環型の農業が営まれています。



えびのの農産物

えびの産ヒノヒカリ：宮崎を代表するブランド米。種子更新率100%を目標に適期作付けを行い、食味コンクールを開催するとともに、学校給食の全量を使用するなどの取り組みにより、品質・量の向上、安心・安全をモットーに県内外に販売しています。

エコピーマン：化学合成農薬の使用回数を従来の1/2以下にするなどした特別栽培のピーマンとして県のエコ認証を取得。立地条件を生かして長期間出荷することにより、新しいブランド化を目指しています。

えびの高原いちご：年間販売額2億円のブランド品。沖縄県や鹿児島県で販売されています。

生産者たちが語る えびのの農業



▲▼高原野菜

食への安全性が問われ、国産野菜への関心が一層高まりをみせている近年、えびの市でも野菜の出荷量は例年になく伸び率を示しています。生産者たちも動員数を増やし急ピッチで収穫作業に取り組んでいます。



「機械で長さを揃えたら手作業で選別と箱詰め。とても根気のある作業です。」



▼▶花き栽培

高原特有の気候を生かした花き栽培。菊やゆりなどの切り花や、パンジー、プリムラなどの鉢苗物に加え、ランキユラスやデルフィニウムなど新たな花種の栽培にも着手しています。



「えびの高原のきれいな山水で育てたバラは大輪で色鮮やか。秋から春は特に大きく育ちます。」



ぼくたち 農業探検隊!

真幸棚田で行われた恒例行事、稲刈り交流会。稲刈りは今回で3度目という。まがたちは真方智晴くんの稲刈り体験です!



棚田百選に選ばれている真幸棚田。お米はおいしいヒノヒカリです。

棚田の所有者 熊本藤雄さん
この西内堅地区では、住民の多くが高齢者。144人中70歳以上の方が60人以上もいらっしゃいます。

いよいよ稲刈りのスタート!!



自分の足をかまて切らないよう、ざくっ! ざくっ!とかまを入れて。

はじめのうちはぎこちなかったけど、だんだんコツがつかめてきたぞ!



刈り取った稲を束にして掛干しに。
このまま10日ほど天日干し。これで旨みがグッと増します。おいしいお米作りは手間ひまがかかるね。



今年もこんなに豊作です!!



宮崎県認証ブランドとしても知られる完熟きんかん。市内では6戸の生産農家がきんかんのハウス栽培を行っています。完熟きんかんの中でも大きさ、色合い、糖度など一定の基準を満たしたものが、最高級ブランドの「たまたま」に認定されます。

環境への配慮を図り、支援体制を強化する。 優れたえびのブランドの確立を目指して。

農業と並ぶ市の基幹産業である畜産業。肥育牛、和牛、乳牛、養豚、養鶏の各部門において、本市は南九州における一大産地として発展し、年間粗生産額は178億円に達しています。近年、子牛価格は高騰しているものの、畜産全般では価格低迷と経営者の高齢化、環境保全など、取り巻く環境は厳しさを増しているため、関係者が一体となり農家の生産活動支援に積極的に取り組んでいます。特に肉用牛は716戸で25,100頭(平成17年)を飼養し、その粗生産額は全国市町村の中でも第2位(平成18年度)を誇り、えびの畜産の中では6割を占めています。規模拡大が進む中、ヘルパー制度等による高齢者支援体制や受精卵移植等を活用した高品質な肉用牛の生産を推進しています。

また、酪農では32戸の農家で1,030頭の乳牛を飼養しており、高品質な生乳生産のため乳牛の改良と施設の改善が図られています。養豚では90戸の農家で56,700頭を飼養。戸数減少の中、規模拡大が進み、消費者ニーズにあった豚肉生産を推進しています。採卵鶏120,000羽、ブロイラー878,000羽を飼養する養鶏農家22戸では、防疫体制を強化。また一方では、付加価値の高い卵を生産しブランド化にも務めています。ほとんどの畜産農家では、平成16年度の家畜排せつ物法施行以来、家畜ふん尿の適正処理と管理のための施設整備を行うとともに、良質な有機肥料の生産と耕種農家への供給を行う体制を確立し、資源循環型の畜産業を推進しています。

えびの畜産物

えびの黒豚：市内の養豚農家で生産・肥育された黒豚は、飼養者の愛情をいっぱい受け生産された逸品で、県内外でも人気商品となっています。
ブランド卵：市内生産者が独自の生産方式と飼料により生産した特殊卵は、県内外へ出荷され、多くの消費者から認められています。



▲えびの黒豚



▲ブランド卵



畜産家たちが目指す えびの畜産業



◀黒豚
えびの市内のほとんどの養豚農家が生産を手がけている黒豚。豊かな自然のなかで元気に育った豚は臭みの少ない、肉本来の豊かな旨み特徴。



◀◀えびの産肉用牛
夏場も冷涼な気候のもと、えびの産の稲ワラなど自給飼料を与えて肥育する肉用牛。個体識別システムによる生育管理で安全性の確保に努めています。さまざまな品評会でもトップクラスにランクされ、県内外でも高い評価を得ています。



採卵鶏▶

安心・安全で付加価値の高い卵を生産するためには健康な採卵鶏を育てることが重要。鳥インフルエンザ対策など徹底した衛生管理を行う鶏舎では、水や餌にこだわり、愛情を注ぎながら環境にも配慮した飼養を行っています。



干し草ロールのシンボルタワー。



子どもたちが動物をスケッチするふれあいコーナー。

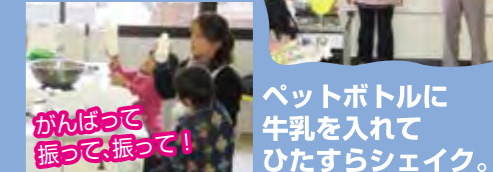
間近で見る牛や豚やとりたちにドキドキ。



「中には何が入ってるの?」「牛さんたちの餌になる干し草。」

『ビニールの中で発酵した干し草は栄養満点の飼料になります』

次は牛乳を使ったバター作りに挑戦。市職員の方に説明を聞いて作業開始!



ペットボトルに牛乳を入れてひたすらシェイク。

さあ、うまくできたかな? 脂肪分が固まってきたら中身をガーゼでこして水切りします。



フレッシュバターのでき上がり★



暮らしを豊かに応援する明るい笑顔と活力と えびのらしさが輝く潤いのある街。

市ではえびの市商工会など関係機関と連携しながら商工業者に対し、えびの市小規模事業特別融資制度、中小企業融資預託制度を設けて中小企業の経営安定を図っています。また、国は、「地域創業助成金制度」を創設しました。本来はサービス関連分野を対象とした制度ですが、えびの市では食料品製造業、飲食料品小売業、一般飲食店も対象となります。また、現在、市内には19社の指定企業があり、地域商工業者の育成を図るとともに誘致企業および既存企業に対し、側面からの支援にも取り組んでいます。

えびの市商工会は、現在会員639人(加入率62.0%)。特産品開発委員会を組織し、えびの市の特産品を使った商品開発に取り組んでいます。

平成19年5月には「ゴーヤ羊羹」の販売を開始し、今後「里芋のすり流し」も商品化の予定。地域ブランド育成に寄与するものとして期待されています。



▲商工会館
商工業者を支援する経営相談や税務相談をはじめパソコン講習会なども開催しています。

えびのブランド



▲そのまんまゴーヤ羊羹
ゴーヤのユニークなカタチを生かしたアイデア商品。ほのかな苦みがくせになるおいしさ。



▲田の神さあ商品券
えびののシンボル田の神さあがキャラクター。市内639の商工会員企業で利用できます。



ふるさとを元気にする えびのの商工業



◀真幸地区
えびの市の西にあたり京町温泉、吉田温泉など良質の湯が湧出する温泉郷としても知られており、毎年2月には南九州最大の買物市である「京町二日市」が開催されます。



▶加久藤地区
えびの市のほぼ中央に位置し九州自動車道えびのインターチェンジや国道、県道がアクセスする玄関口となっています。市役所などの公共施設や、グリーンパークえびのなどの商業施設が集積しています。



◀飯野地区
えびの市の北東にあり小林市と市境を接しています。自然公園や渓谷など見どころも多く点在しており、春には飯野出張所周辺の商店街を中心に植木市が開催されます。



▶明石酒造
明治24年創業の明石酒造は市内唯一の焼酎製造会社。主力の芋焼酎に加え、米・麦焼酎などさまざまな銘柄の焼酎を製造販売。大の焼酎好きといわれた法然和尚をまつた「法然神社」がある栗下地区にあります。



ぼくの 職場体験!

えびの市立上江中学校
2年生の山口貴大くんが
職場体験で
「十兵衛うどん」さん
にお世話になりました。



国道268号線
沿いにある純手打ち
「十兵衛うどん」。



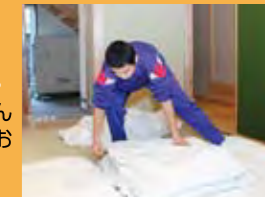
朝一番のお仕事

お店の近くにある
麺工場で麺打ちのお手
伝い。少々緊張気味!



職人さんが技を伝授!
材料をまぜあわせ、ねかせた
生地をぐいっ!とこねます。
なかなかチカラのいる作業!

次は宿泊棟へ移動。
客室で宿泊客のおふとん
を片付けたら、今度はお
風呂掃除です。



麺打ち、ふとんあげ、風呂掃除...
ひとつのお店でも仕事はたくさん。



長ぐつに棒タワシを持って、スミまでキレイにゴシゴシ!
最後は厨房で従業員さんのまかない食作り。



50人分もの食事の準備は
大変です!

貴重な体験でした。



住み慣れた地域で自分らしく生きる どんな人にも思いやりとやさしさで。

少子・高齢社会の到来や核家族化などを背景に、世帯構成や家族の機能が大きく変化し、相互扶助の弱体化や社会的つながりの希薄化などに加え、自殺、虐待、引きこもりなどが新たな社会問題になっています。本市においても、市民が主役となり一人一人が助け合い支え合うことによって、住み慣れた地域で自分らしく安心した生活を送ることが強く求められています。このような中、住民自らが策定した「地域福祉計画」を基本に、平成19年度から中学校区ごとの地域福祉推進会議を立ち上げ、自治公民館ごとの見守りネットワークの確立や、民生委員や地域福祉推進委員をリーダーとする各種地域福祉活動の推進、ボラ

ンティア活動への参加促進などに取り組んでいます。今後、これらの力が地域福祉充実の要となっていきます。

また、本市における65歳以上の高齢者数は7,795人(平成20年4月1日)を数え、高齢化率は33.68%。高齢者世帯、一人暮らし、寝たきり、認知症老人等の増加とともに、支援が必要な高齢者も増えてきています。本市では、高齢者が住み慣れた地域で、健康でいきいきとその人らしく自立した生活が続けられるまち、「人と自然がほっとなえびの」を目標とした高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画を基本に、健康の保持と増進、介護予防事業の推進、高齢者クラブな

どの生きがい対策事業を推進。要介護者はもちろん、介護をしている人を支える在宅サービスの推進や地域ケア体制の整備にも取り組んでいます。

一方、障害者福祉においては障害者の重度化・重複化とともに障害者の高齢化が進行しているため、さらなるノーマライゼーションの理念に基づいた障害者の自立と社会参加が求められています。本市では「障害者計画」を基本計画とする「障害福祉計画」に基づき、市民一人一人が互いに尊重し合うことを目標に、障害のある人の個性に応じた福祉サービスの提供や地域生活を送るための支え合い事業を展開しています。



豊かな毎日を支援する えびのの社会福祉



▲老人ホーム真幸園
入所定員は一般50人、ショートステイ4人。プライバシーを守るため居室はすべて個室。天然温泉の浴室は利用者にも大変好評です。



▲社会福祉協議会
子どもからお年寄りまで市民が安心して健やかに暮らせるよう、地域と連携しながらさまざまな福祉活動を行っています。2006年の豪雨災害では支援情報の提供を行うなど、被災者を支援する災害ボランティアの受付窓口ともなりました。



▲老人福祉センター
市内にお住まいの60歳以上の方がご利用できる施設で、各種相談をはじめ趣味や娯楽、入浴などの場を提供し、明るく生き生きとした生活を支援しています。



▲ふれあい館
えびの市中部在宅介護支援センター社会福祉協議会に隣接し、デイサービスや高齢者への給食サービスを行っています。

▼えびの福祉作業所
障害者の自立支援を目的に平成14年に開設、平成19年にNPO法人格を取得しました。月曜から金曜まで利用者が軽作業を行いながら社会参加を果たしています。



ほくたち福祉交流隊!

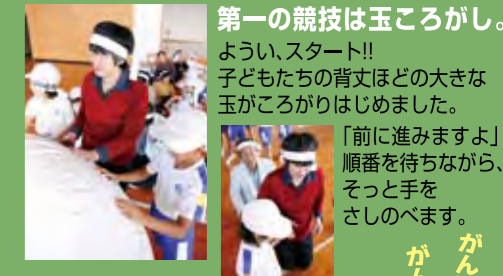


視覚障害者福祉会のレクリエーション大会に加久藤小学校の元気な3年生たちが参加しました。

まずは握手で自己紹介。
「今日はどうぞよろしく
お願いします」
「こちらこそよろしくね」



競技はすべて目隠しで! これでみんなが同じスタンスです。



第一の競技は玉ころがし。ようい、スタート!!
子どもたちの背丈ほどの大きな玉がころがりはじめました。
「前に進みますよ」
順番を待ちながら、そっと手をさしのべます。

第二の競技はバトンリレー。



30mのローブに通したバトンをもって走ります。



子どもたちは孫のようです。
思わず笑顔がこぼれます。

第三の競技は玉入れ。

手探りで玉を探そうよ
子どもたち。
「どこどこー!!」



狙いを定めて「そうれっ!!」
毎回負け知らずの障害者チーム。
今回も見事に勝利!!



みんなよくがんばりました♪

妊娠、出産、子育てまできめ細かな支援で 小さな命のぬくもりを守り育てる。


えびの市では急速な少子化が進行しており、これまで以上に子どもたちが健やかに暮らすことのできる環境を整えるための課題が増加してきています。

子どもたちは私たちにとって大切な宝。本市では、「次世代育成支援行動計画」を策定し、子どもを安心して生み育てることのできる地域社会の実現に向けて、多用で柔軟な子育て支援のためのサービスに取り組んでいます。そのために必要なのが保育施設の充実。現在、市内には7か所の認可保育園があり、各保育園では、女性の社会進出等による多様な保育ニーズに対応するため、低年齢児保育や延長保育など保育サービスなども充実させています。

また、保護者の病気や育児疲れなどに対応するため、一時保育や地域での子育て支援の拠点となる「子育て支援センター」を設置し、関係機関と連携を図りながら育児相談や講演会、交流会、レクリエーションなどの幅広い活動を行っています。

一方、母子・寡婦・父子家族については、生活の安定と子どもの健全育成を図るため、児童扶養手当制度や母子医療費、寡婦医療費、父子医療費の助成制度があります。

また、「母子および寡婦世帯生活つなぎ資金」の貸付の利用促進も図られています。今後も、えびの市母子寡婦父子福祉連絡協議会を中心に、より一層の支援を行います。



**えびの市
 次世代育成支援
 行動計画**

平成15年に国は少子化対策の一環として「次世代育成支援対策推進法」を制定しました。本市でも平成13年3月に策定したえびの市エンゼルプラン（えびの市児童育成計画）で推進された施策や成果、課題等を踏まえ「えびの市次世代育成支援行動計画」を策定。子どもたちの健やかな成長と子育て家庭への支援を充実させるための具体的な取組みなどを定めています。



子どもたちは、みんなの宝 支えるえびのの児童福祉



定期検診・育児相談 ▶▶
 3か月検診、6か月検診では医師による診察や計測のほか保健師による育児相談などを行っています。



◀ 児童クラブ
 放課後や学校の休業日に、保護者不在となる家庭の児童たちを受け入れる施設で平成14年に開設しました。小学校の1年生から3年生を対象とし、遊びや学習に取り組む子どもたちを指導員らが親代わりとなって見守っています。



子育て支援センター ▶
 育児相談や育児支援をはじめ、就学児の放課後支援、絵本や遊具の貸出を行うなかよし号の運営などさまざまな子育て支援を行っています。また社会福祉協議会とも連携し高齢者との交流を行うなど幅広い福祉活動の拠点ともなっています。



おかあさんと一緒に なかよし体験隊!



なかよし保育園内にある子育て支援センターで行う親子で楽しむおたのしみ会。育児座談会や遊び体験などさまざまなメニューで育児支援に取り組んでいます。

まずは園長先生のごあいさつ。

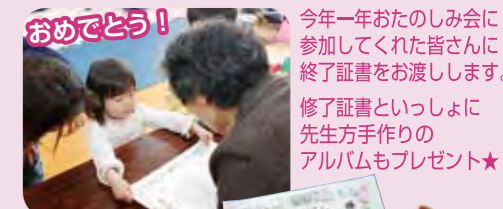
みなさんこんにちは。本年度最後のおたのしみ会です。今日は、親子の絆について少しお話ししましょう。



さて、次は指遊び。うまくできるかなー!

「手を出して、大きな声でいちにっさーんのしののにのぞ」
 おかあさんと一緒に、はい!

次は本年度の終了式を行います。



おめでとう!
 今年一年おたのしみ会に参加してくれた皆さんに終了証書をお渡しします。修了証書といっしょに先生方手作りのアルバムもプレゼント★

「楽しいセンターの行事に参加して心も体もすくすく元気になりました。」



おかあさんからのごあいさつです。
 今年一年たくさんのお友達が楽しく過ごすことができました。

どうもお世話になりました。

「いただきまーす!」 さあ、お楽しみのおやつ時間。



◆今日のメニューはチョコレートフォンデュ!
 甘い香りがいっぱいです。

参加者全員で記念撮影。



一年間ありがとうございました。



安全防災・環境整備

快適で安全な生活環境を守る 最新の技術力と、市民の行動力。

えびの地震、山津波、豪雨災害など、えびの市では過去に大きな災害が発生しています。これらの経験を踏まえ、えびの市では、いざというときあわてずに安全に避難できるように、平成13年にえびの市地域防災計画を、平成19年に国民保護計画や洪水ハザードマップを作成しました。市民の安心と安全を守るため、消防団や自主防災組織、そのほか関係機関と協力して、防災体制の強化を図ります。また、防犯の面では、高齢者の方々が「見守り隊」となって、子どもたちの登下校を見守ってくださっています。このような方々と連携を図りながら、「安心・安全で住みよいえびの市」を築いていきます。

えびのは自然豊かなまち。この自然は、いつまでも守っていかねばなりません。だれもが美しい環境で暮らせるよう、えびの市ではえびの市環境基本条例に基づき、えびの市環境基本計画を策定しています。水・緑・生物等の自然環境の保全、省資源、省エネルギーなど、環境にやさしい施策を進めています。平成16年4月からスタートしたごみの細分別化も市民の協力を得て定着し、ごみの再利用・再資源化・減量化につながっています。今後とも循環型社会に向けて、4R（ヨンアール）活動を行っています。



▲環境センター

また、川内川の最上流域で暮らす私たちの責務は水質保全。浄化槽の設置を推進し水質保全への理解・啓発などを一層推し進めるものとします。

※4R
リフューズ(不要なものは断る)、
リデュース(ごみの量を減らす)、
リユース(繰り返し使う)、
リサイクル(再利用する)



▲えびの市美化センター
平成9年に完成したごみ焼却施設。焼却の際に発生する余熱を利用した浴場を併設しており、市民らに広く開放しています。



市民たちが守る えびのの環境



▲えびの消防署
年間650件から700件の救急業務に出勤。緊急消防援助隊の登録車両となっている高規格救急車両には高度救命用資機材や防震架台を装備しています。



▲災害救助活動
2006年7月に甚大な被害をもたらした集中豪雨。消防団、自衛隊、消防署、警察署、市役所が連携し迅速な救助活動を行いました。



▲交通安全教室
交通安全協会の職員らが幼稚園・保育園児たちに交通安全指導を行います。



▲交通安全街頭キャンペーン
警察署、自衛隊、JAえびの市、地域婦人連絡協議会等が協力しドライバーに安全運転や飲酒運転根絶を呼びかけます。



▲環境美化推進員
市内各地区に環境美化推進員を設置し、環境美化に対する意識啓発に取り組んでいます。

▼クリーンアップ

川内川流域の飯野小学校の児童たちと川内川上流漁業協同組合飯野支部の会員による河川清掃。ゴミ拾いの後は、1,000尾のウナギの稚魚と山太郎ガニを放流しました。



ぼくたち 避難訓練隊!

えびの市内にある全33部の消防団と消防署、警察署、自衛隊の協力で、行われた防災訓練に坂元正孝さん、裕二郎くん親子が参加しました。



まずは心肺蘇生法から。

マネキンを使って心臓マッサージと人工呼吸の実技訓練。続いてAED(自動体外除細動器)の取扱い方の訓練です。



次は救助のためのボート操作。

自衛隊員の指導を受け、川内川で実際にボートをこいでみました。



坂元さんが住む東内堅地区も過去にかなりの水害にあいました。



「息を合わせるには、知っている人と一緒にこぐのが一番。市内の方と日ごろから訓練するといいかも。」

最後は土のうづくりと消火訓練。

袋の八分目まで白砂を入れたらひもでしっかり口をしぼります。親子で協同作業。



思った以上に重たいっ!!
これで無事に訓練終了。

学ぶ喜びやふれあう楽しみを味わう 輝くえびのの元気人を応援する。

えびの市では、住民の日々移り変わる、さまざまな学習ニーズに対応するため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に学べる生涯学習環境の充実を目指しています。その柱が「自治公民館活動奨励事業」で、学習活動は郷土芸能の伝承や年中行事、世代間交流や健康、趣味に関するものと多岐にわたっています。

これらの活動は住民が自分たちで企画・実施するもので、市では講師謝金の助成や、校区ごとにある地区公民館に社会教育指導員を一人ずつ配置して、活動の指導・助言を行い、地域の活動を支援しています。また、「地域の子どもは地域で育てる」意識づくりとして、公民館活動の中で「大人と子

どもの交流活動事業」を実施したり、公民館や学校、関係団体が連携した連絡会議を設置したりして、青少年の健全育成と地域での子育て支援を推進しています。そのほか、住民の市政に対する理解を深め、さらなる学習機会の提供を図るため「えびの市出前講座」を開設しています。小グループでの申込が可能で、65講座で開設した当初は市だけの対応によるものでしたが、平成19年度からは市内外の公共機関の協力も得て90講座を数えるほどとなり、内容も年々充実しています。



▲えびの市文化の杜
えびの市の文化・教育の中核である「えびの市文化の杜」は、市の北側、大明司地区の小高い丘の上にあります。緑に囲まれた敷地内には、イベントホールや調理実習室なども完備した「文化センター」やふるさとの歴史や文化遺産を展示紹介する「歴史民俗資料館」、お話の部屋や調査研究コーナーを併設した「市民図書館」などがあり市民に広く利用されています。それぞれの施設で年間を通して独自の催しや企画展なども多数開催。秋の恒例行事「田の神さあの里産業文化祭」の会場ともなっています。



心身ともに健やかに 生きがいのある人生を。



▲神社原運動公園



▲王子原運動公園



▲永山運動公園
サッカー、野球、グラウンドゴルフなどさまざまなスポーツを楽しむ市民たちに幅広く活用されています。



▲たこあげ大会
自治公民館連絡協議会と子ども育成連絡協議会が主催する真幸地区の恒例行事。毎年大勢の親子が参加します。



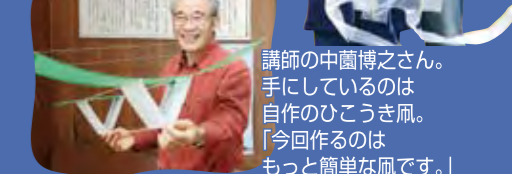
▲公民館活動
地域住民が主体となって取り組む公民館活動。世代を越えた交流の輪が広がります。

▼真幸地区体育館
市内の主要スポーツ施設でありスポーツ大会をはじめ多彩なイベントの会場ともなっています。



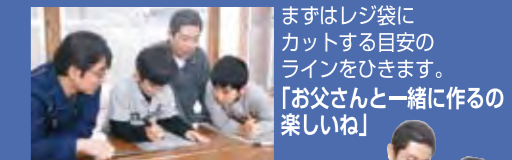
ぼくたち 地域交流隊!

真幸地区の下島内公民館で行われた地域交流会。真幸小と真幸中の元気な親子が凧作りに挑戦しました。

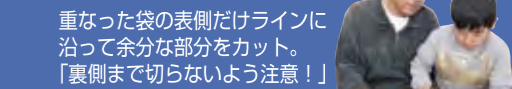


講師の中園博之さん。手にしているのは自作のひこうき凧。「今回作るのはもっと簡単な凧です。」

材料は竹ひごとレジ袋。 環境に優しい凧作りのスタート!



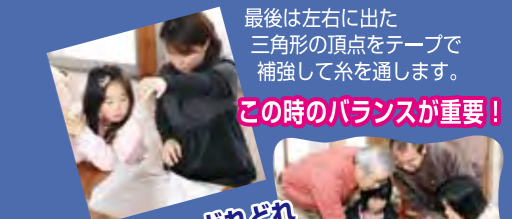
まずはレジ袋にカットする目安のラインをひきます。「お父さんと一緒に作るの楽しいね」



重なった袋の表側だけラインに沿って余分な部分をカット。「裏側まで切らないよう注意!」



次は骨になる竹ひごをテープでとめて。「つるつるしている方を表にしますよ」



最後は左右に出た三角形の頂点をテープで補強して糸を通します。

この時のバランスが重要!



どれどれ大丈夫?

公民館長さんも心配そうにチェック。

**開始から約90分
手作り凧の完成です!**

さあ、できた組から順に上げてみよう。



うわあ 落っこちる〜!
糸を巻いて、巻いて!

この日イチバン
凧上げ名人。
左右のバランスもバッチリ★

参加者みんな「記念撮影」



大変よく上がりました★

教育環境を取り巻くさまざまな課題に取り組み 子どもたちの豊かな個性や可能性を伸ばす。

雄大な霧島の麓、中央には川内川が流れる自然豊かな田園風景に見守られながら、子どもたちは毎日元気に学校に通っています。地域の高齢者の方々がボランティアでスクールガードとして通学路に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守ってくださっています。

えびの市の学校教育5つの挑戦として、

- ①ふるさと教育・キャリア教育への挑戦、
 - ②学力向上を図る指導への挑戦、
 - ③心の教育への挑戦、
 - ④体育、健康教育への挑戦、
 - ⑤特色ある学校の創造への挑戦
- を掲げています。現在、えびの市では、えびのの歴史・文化・伝統

を学ぶ「えびの学」という教科を新設し、愛情と自信と誇りを持って地域に貢献できる「人づくり」、「志を持って未来を切り開く子どもの育成」を目指しています。また、平成17年度から学校二学期制を導入し、「より質の高い教育を、より創造的な教育活動で」を目標に、活力ある学校教育の実現のため積極的な取り組みを行っています。学習時間を確保することによって、基礎学力の充実、体験的な学習、問題解決的な学習の推進等、教育の充実等に取り組んでいます。さらに、平成20年度からモデル的に、飯野小学校、飯野中学校、飯野高校で「小・中・高一貫教育」を実施し、6・3・3制の12年間

を見通した系統的・継続的な教育システムを確立し、学力向上と地域貢献のための「人づくり」を目指していきます。



▲市立飯野中学校



▲県立飯野高等学校



市立加久藤小学校



この街の明日を担う 元気な子どもたち



▲市立岡元小学校

まるで大家族のような全校生徒たち。児童数の少ない学校では学年間の垣根を越えたあたたかな交流が育まれています。



▲市立加久藤小学校 尾八重野分校
 市内にある6校(1校は休校中)の小学校のうち2校は分校(1校は休校中)。



▲市立上江小学校

秋の恒例行事である「上江っ子フェスタ」。自分たちで育てたお米で餅つきに挑戦したり、地域のみなさんといっしょに昔の遊びを楽しんだりするなど盛り沢山の収穫祭です。



▼市立真幸小学校

6年生が1年生に絵本の読み聞かせを行ったり、教師、保護者、地域が連携を図ったりするなど独自の教育活動に取り組んでいます。



親子で学校体験



えびの市立飯野小学校で4年生の授業参観。防犯教室や給食試食など保護者たちもちょっぴり昔に戻って学校生活を体験してみました。

えびの警察署の女性警察官が万引きをしようとする少年にふんして「こんな時どうしますか?」と児童たちに問いかけます。



じっくりと自分たちの考えを用紙に書く子どもたち。

女性警察官の質問にみんな次々と手を挙げて大きな声でハキハキと答えます。



この日はPTA主催のバザーも開催されました。

日用品から食品まで超破格値。地区のみなさんや先生方にもご協力いただき大盛況。



バザーの収益金は、卒業式の生花代や運動会の備品代として有効に使われています。

待ちに待った給食は保護者と一緒に準備。

私たちのときとは食器が違うね

牛乳はビンじゃなくてパックなんだね。



「今日はお母さんと一緒にうれしいなあ」「苦手な野菜もちゃんと食べてるね」

ここに暮らす人々が心身ともに健康であるために 求められる支援を思いやりの心で。

人はだれもが健康で生き生きとした生活を送りたいと願っています。また、市民が健康であれば明るく元気に満ちたまちづくりにもつながります。

えびの市では成人を対象とした「元気に笑って健康えびの」、乳幼児から中学生までを対象とした「元気で笑顔！えびのっ子」、乳幼児の虫歯予防を目的とした「笑顔でキラリ☆元気な歯」という保健計画を策定し、赤ちゃんから高齢者まで、市民の健康を保持・増進するためにさまざまな事業を行っています。

この計画に沿って、乳幼児には心身ともに健やかに成長するように乳幼児健診や子育て相談を、大人になってからは万病を引き起こすといわれる

生活習慣病の健診や保健指導を、また高齢者に対しては寝たきりにならないように健康相談や健康教育などを行いながら、市民の心とからだの健康づくりを支援しています。

一方では、高齢化の進展や医療の高度化により、医療費や介護給付費が年々増大し、市の財政圧迫の要因ともなっています。また、これに伴って市民が負担する保険料も増大しています。

このため、今後は健康づくりはもちろんのこと、医療費等の抑制の観点からも「予防」に重点を置いた取り組みを行います。

特に、40歳以上の方には全員健診を受けていただき、生活習慣病の予防・重症化の抑制に取り組めます。



▲えびの市立病院



▲保健センター



健やかな暮らしを支える 充実の医療。



▲高速マルチスライスCT撮影装置
1回転0.6秒で6枚の断層像を撮影する最先端装置。高速CT撮影が可能で肺ガンおよび消化器疾患の検査、動脈りゅうの早期発見にも威力を発揮しています。



▲男の腕まくり料理教室
男性にも料理を楽しんでもらおうとスタートした料理教室。えびの市食生活改善推進員の指導を受け参加者たちはみな真剣な表情です。



▲元気に笑ってウォーキング教室
だれでも気軽に健康づくりを実践できるウォーキング教室をはじめ市民の元気を応援するさまざまな講座を開催しています。



▲転倒予防教室
中高年を対象に日常生活に取り入れやすい予防法などを紹介しています。

▼健康相談

田の神さあの中産業文化祭では血圧・体脂肪測定や献血、医師による健康相談なども行っています。



えびの市立病院で飯野小学校二年生の黒木たいそんくんが、お母さんと一緒に病院見学を体験しました。
案内役は事務局のいむたさん。



まずは受付でどんな症状かを伝えます。
次は外来へ
窓口でカルテを出します。

外来の一番奥にあるのはリハビリ室。
案内役はリハビリ担当の村上先生。

ここは歩けなくなったり立てなくなったりしたときまた歩けるようになるよう一緒に運動をします。



いーち、ほーい、さーん。
1.5kgのおもりをつけて膝の曲げ伸ばし

外来のすぐ横にある救急車搬入口。



えびの消防署やこの病院から出動した救急車が患者さんを搬送してきます。
近くで見るのは初めて！

ストレッチャーを出して救急車から患者さんをおろします。

最後は最新医療装置のCTスキャンの見学。



この装置は、体の中を見る機械。例えば、ご飯が入っていきところか悪いときもわからないか。
この丸の中に入っていきと機械がぐるぐる回りながら写真を撮るんだよ。
「ドキドキするなあー」



ちょっと緊張した初めての病院見学。
先生方、どうもありがとうございました。

市民の声を、市政に生かし 人と自然が「ほっと」なまちづくりを。

えびの市は、緑豊かな自然と、先人の培ってきた貴重な歴史・文化・伝統を受け継ぎながら、市制施行以来標榜している「田園観光都市」を継承しつつ、地理的条件・自然環境を生かした個性豊かなまちづくりを進め、えびの市の持つさまざまな資源を活用し独自性を発揮するとともに、近隣市町村との連携を図りながら魅力的な「住みたいまち」を目指してきました。

真に豊かな生活を送ることができるよう、生涯学習や社会参加活動の充実、男女共同参画社会の形成、国際交流促進による異文化交流等を積極的に進めていながら、えびの市に住む人が、働き、学び、自然や歴史・文化を守り育て、憩い楽しみ、生きがいと豊

かさを感じ、本当に住んでよかったと実感できるまちづくりに取り組んでいます。

これらの実現を目指すため、次の基本目標を設けて、“ほっとな”人間関係、“ほっとな”暮らしの創造に向け総合的な施策の展開を図っていきます。

- (1)豊かさや活力あるほっとな産業づくり
- (2)新時代を担うほっとな人づくり
- (3)誰もが生き生きと暮らせるほっとな環境づくり
- (4)安全で快適に過ごせるほっとな生活環境
- (5)魅力あるほっとなまちづくり
- (6)時代に即応したほっとな行政



▲えびの市役所外観



笑顔と活気にあふれる ふるさとづくり。



議長 高牟禮 宏邦



副議長 外園 三千男



◀市役所内
平成19年に行った市役所本庁舎耐震等改修工事に伴うバリアフリー整備。だれもが利用しやすい市役所とするため、点字ブロックの整備や段差の解消、多目的トイレの整備などを行いました。



市役所内多目的トイレ▶
本庁舎2階の多目的(思いやり)トイレは、市内の公共施設では初めてのオストメイト対応。ウォッシュレットやベビーシートも備え、高齢者や乳幼児連れの方でも安心して利用できるやさしいトイレです。



ほくは 広報制作隊!

えびの市が発行する「広報えびの」。総務課行政広報係で、上江中学校の久保幸祐くんが広報制作を体験しました。

毎月20日に市内に配布される「広報えびの」。市役所からのお知らせや地区ごとの取り組み、季節のイベントなどを紹介しています。

今回制作体験するのはえびの元気な活動を行うかたを紹介するページ。

総務課の職員と中内堅区の福元さん宅を訪問。



いよいよ撮影本番!



実際に制作されている様子をカメラでパチリ★光の具合を見ながら微調整。「笑顔がうまく撮れたかな?」

市役所に戻ったら早速パソコンで写真データのチェック!

「この写真はどうか?」市職員の話聞きながら真剣な表情。

久保君が撮影した写真は2007年3月号に掲載されました。



仕事の種類や量の多さに驚き!

いろんな課の仕事も体験したいです。

ふるさとの偉人たち



しまづいえひさ
島津家久

第十八代島津藩主
1576(天正4年)～1638(寛永15年)

島津義弘の三男として加久藤城に生まれる。幼名は米菊丸、又八郎。家久の名は徳川家康の偏諱によるもの。武勇に優れ、慶長の役では父義弘とともに朝鮮に渡り、各地で軍功を挙げる。父義弘、伯父義久より家督を継いだのちは鶴丸城を築城し領内守備を固めた。また武士・農民を支配するため藩の支配体制を強固にするなど薩摩藩の礎を築いた。
〔所蔵/尚古集成館〕



くろきちかよし
黒木親慶

軍人
1883(明治16年)～1934(昭和9年)

名門と云われた黒木家の跡継ぎとしてえびの市飯野村に生まれる。元陸軍参謀でシベリア駐在武官等を歴任。亡命したロシア白軍の、セミョーノフ將軍をかくまったため軍職を退いたと伝えられ、えびの市内に残る黒木家住宅にはそのために増築した居間が残っている。映画監督の故黒木和雄の母の異母兄にあたる。



ならきのりゆき
榎木範行

民俗学者
1904(明治37年)～1937(昭和12年)

現えびの市大字島内に生まれ、真幸小学校、加治木中学校を経て國學院大學高等師範部に入学。折口信夫との出会いを機に民俗学を志す。鹿児島県立商船学校で教鞭を執りながら民俗学の研究を続け、1936(昭和11)年には野間吉夫らと鹿児島民俗研究会を設立。1937(昭和12)年に地域民俗学についてまとめた「日向馬関田の伝承」を刊行する。



なかまとしのり
中間俊範

元えびの市長
1916(大正5年)～1990(平成2年)

昭和26年4月より37年2月まで飯野町議会議員を務めたのち37年2月から飯野町長に就任し41年の三町合併後から45年11月まではえびの町長を歴任。45年12月の市制施行後、49年11月から61年1月までの約12年間えびの市長として市の発展のため尽力する。就任中は市制施行、九州縦貫道路の一部開通、陸上自衛隊えびの駐屯地の誘致などに卓越した手腕を振るう。



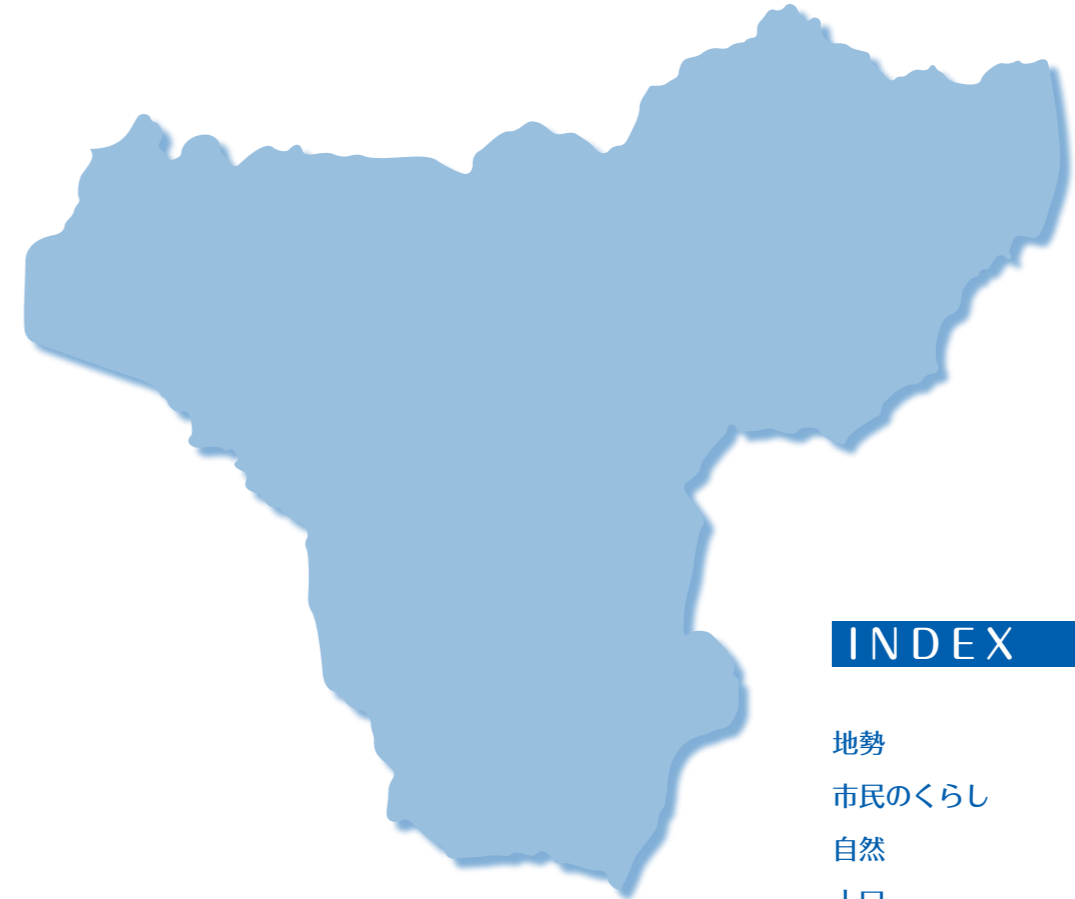
くろきかずお
黒木和雄

映画監督
1930(昭和5年)～2006(平成18年)

三重県松阪市に生まれ幼少期を満州で過ごした後、祖母の住むえびの市飯野へ。中学・高校を宮崎で過ごした後、同志社大学へ進学。1954年には岩波映画製作所演出部で助監督を務め、1957年に監督デビューし1962年にフリーとなる。代表作は、豊かな霧島の自然と自らの少年期を描き、えびの市内でロケが行われた「美しい夏キリシマ」や、「TOMORROW明日」、「父と暮らせば」など。

2008市勢要覧

えびの市 資料編



INDEX

地勢	44
市民のくらし	45
自然	46
人口	47
農林業	48
産業	50
運輸・通信	51
生活環境	52
健康・社会保障	53
教育・文化	54
安全	55
行財政	56
議会	59
年中行事	60
官公署等	61



市の位置と地勢、地質、沿革

- 位置** 本市は宮崎県、鹿児島県、熊本県の三県の境界にある。九州縦貫自動車道も本市を中心に宮崎、鹿児島、熊本の三方へ伸びる。東経130度42分～130度59分、北緯31度55分49秒～32度7分49秒の間にある。
- 面積** 市の総面積は283平方キロメートルで東西約26キロメートル、南北約22キロメートル。南から北にむかってだんだん広くなり扇の型をしている。
- 地勢** 市の南部は霧島屋久国立公園の主峰韓国岳をはじめ、甕岳、白鳥山、飯盛山などが連なって“えびの高原”をつつみ、その山すそは北にむかっておだやかな傾斜の台地を作っている。北は九州山脈の南端にある矢岳、国見、鉄山などの連山が急傾斜で南下している。
 この両山系に囲まれた中央部は平坦地で、霧島山に源を発する長江川、池島川と九州山脈に源を発する川内川が合流してこの盆地の中央を西に流れ、鹿児島県薩摩川内市に至っている。宮崎県で川が西に流れるのは本市だけである。これら河川の流域は地力のすぐれた砂質土壌で農作物の栽培に適し、なかでも質・量ともに県内一を誇る“えびの米”の産地となっている。
- 地質** 南の山岳地帯は霧島旧期溶岩と新期溶岩の二つからなり、中央平坦部は川内川流域を中心に沖積層を形成、その周囲を加久藤層群がとりまき、その外側を段丘礫層が走っている。北部の方では山岳地帯の東半分は四万十層群とシラス泥溶岩が混合しており、西半分は主として安山岩からなっている。
 耕地の土質は水田地帯はほとんど砂質土壌または壤土からなり、畑地帯は火山灰土がほとんどで粒子の細かい黒色の土壌である。
- 沿革** 明治22年町村制の施行により飯野村、加久藤村、真幸村が誕生。昭和15年4月3日に飯野村が町に、昭和25年4月1日に真幸村が町に、昭和30年2月11日に加久藤村が町になる。そして昭和41年11月3日、この三つの町が合併し「えびの町」となり、さらに、昭和45年12月1日に市制を施行し現在に至る。

市民の暮らし

人口 (10/1現在) 28,972人 (昭和45年国調) → 23,079人 (平成17年国調) → 22,473人 (平成19年)	就業者 ()は全産業から見た割合 15,583人 → 12,229人 → 11,408人 うち第1次産業 9,935人 (63.76%) (昭和45年国調) → 3,245人 (26.5%) (平成12年国調) → 2,954人 (25.9%) (平成17年国調)
世帯数 (10/1現在) 8,084世帯 (昭和45年国調) → 9,148世帯 (平成17年国調) → 9,153世帯 (平成19年)	事業所 1,364事業所 (昭和44年) → 1,342事業所 (平成13年) → 1,266事業所 (平成18年)
高齢者 ()は高齢者率 3,077人 (10.6%) (昭和45年国調) → 7,582人 (31.2%) (平成17年国調) → 7,649人 (34.0%) (平成19年)	農家数 5,251戸 (昭和45年) → 3,156戸 (平成12年) → 2,982戸 (平成17年)
出生 (前年10/1～9/30までの1年間) 332人 (昭和45年) → 155人 (平成14年) → 161人 (平成19年)	肉用牛 7,314頭 (昭和45年) → 22,800頭 (平成13年) → 25,900頭 (平成18年)
死亡 (前年10/1～9/30までの1年間) 293人 (昭和45年) → 305人 (平成14年) → 371人 (平成19年)	市道 479.2km (昭和45年) → 588.5km (平成12年) → 591.8km (平成17年)
転入 (前年10/1～9/30までの1年間) 1,932人 (昭和45年) → 1,144人 (平成14年) → 1,394人 (平成19年)	犯罪発生件数 189件 (昭和45年) → 193件 (平成12年) → 162件 (平成17年)
転出 (前年10/1～9/30までの1年間) 3,037人 (昭和45年) → 1,329人 (平成14年) → 1,520人 (平成19年)	交通事故 88件 (昭和45年) → 88件 (平成13年) → 94件 (平成18年)
小学生 3,323人 (昭和45年) → 1,391人 (平成14年) → 1,084人 (平成19年)	市税収入済額 173,300千円 (昭和45年) → 1,762,902千円 (平成12年) → 1,783,327千円 (平成17年)
中学生 2,073人 (昭和45年) → 827人 (平成14年) → 665人 (平成19年)	一般会計決算額(歳出) 1,125,395千円 (昭和45年) → 11,825,180千円 (平成13年) → 10,350,988千円 (平成18年)
高校生 472人 (昭和45年) → 572人 (平成14年) → 484人 (平成19年)	